



校長室だより

一步一步



長い夏休みが終わり二学期が始まりました。夏休みの子ども達はいかがだったでしょうか。いろいろな経験をしてひと回り大きく成長したことと思います。全員が無事に元気に登校できたことをうれしく思います。

8月22日に行われたへき振の水泳交歓会、昨日の校内水泳記録会、明日行われる白山市学童水泳記録会と水泳に関する行事が続きます。今年の水泳のがんばりが一つの成果となって表れます。一つのこと頑張っていて取り組むことはとてもよいことと思います。記録を一つのはげみにし、これからも続けていってほしいと思います。



二学期はじまる！！

暑い夏から寒い冬までの長い二学期が始まります。運動会や校外学習、学習発表会とさまざまな行事があります。すもう大会や文化祭、バザーなど地域の行事もいっぱいあります。学習や遊びはもちろん、これらの行事にもしっかりと取り組んでいってほしいと思います。それが、自分をよりよくすることにつながります。

始業式では、それに関して以下のような話をしました。

ある学校で、次のようなことがありました。先生が、「〇〇さんの目に小石が入って大変です！」「〇〇さんが転んで前歯を折りました！」と校長室に報告に来ました。両方とも大変なことです。なぜそこまで大変になったかを調べてみると・・・まず、目の方は、小石が飛んできたときに目をつぶらなかった、前歯の方は、転んだときに手をつかずそのまま顔から地面に倒れて顔を打った、(手は自由であったにもかかわらず)ということが分かりました。事故は大変なことですが、普通は、目の近くに物が飛んできたときに目をつぶれば、また、倒れたときに手をつけば、そこまで大きなことにならなかったと思います。自分の身を守るという反射や方法が身に付いていないのです。では、なぜそのような“当たり前”な反応ができなかったのでしょうか。

それは、いろいろな要因があるとは思いますが、“経験”の少なさが大きな要因の一つと考えられます。子どもが小さいときに、話しかけられたり、体を使った遊びをしてもらったりすることが少ないことや、子ども自身もゲームなどをすることが多く、ずっと家の中にいて、体を動かしたり、転んだりという経験があまりないことで、対応能力が育っていなかったと考えられます。実は数年前からこのようなことが起きるようになってきました。

成長の中で、いろいろな“必要な経験”(度がすぎるものは当然×ですが)をすることが、人間として一人前になっていくときにとっても大切なことです。

学校でのいろいろな学習や運動、遊び、協力、規律を守るなど多くの“経験”をし、一人ひとりがしっかりと、生きていく力を身に付けていってほしいと思います。